

取り立て助詞	係助詞	副助詞	他の要素との関係を背景に、文中のある要素に焦点を当て、並列・極限・限度・評価・ぼかしの意味を表す助詞
---------------	------------	------------	--

用法：名詞だけでなく、動詞、形容詞、副詞にも接続をする。※格助詞の前は基本名詞である。

接続	名詞 接続の取り立て助詞	雨天 名詞	でも 取り立て	決行する		バナナ も 食べる。
	動詞 接続の取り立て助詞	聞く 動詞	も 取り立て	涙 語る 動詞	も 取り立て	涙 この道を行く しかない 。
	形容詞 接続の取り立て助詞	彼は	大きい 形容詞	だけ 取り立て	で 格助詞	力がない。 大きい ばかり が能じゃない。
	副詞 接続の取り立て助詞	のんびり 副詞	ばかり 取り立て	も 取り立て	してられない。	ゆっくり など してられない。

用法：格助詞と違い、文の必須成分では無いために、無くても文章が成り立つ。※必須成分の格助詞は絶対に必要

用法：ある種の暗示的意味（含意）を含む。「彼**も**犯人だ」＝「彼は犯人だ」＋「彼以外にも犯人がいる」（含意）がある。

用法：似た意味の取り立て助詞は連続して使われることがある。「このコンサートは東京**だけしか**やらない」「だけ」＋「しか」の連続

用法：格助詞「が」は取り立て助詞の前には表れない。取り立て助詞の後ろに現れる。「私**などが**、来てもよかったですか。」「など」＋「が」

用法：述語に取り立て助詞が接続する場合は**丁寧形**でない**普通形**「辞書形ル形・夕形・テ形・ナイ形」に接続する。普通形＝現在過去肯定否定

接続	「頭を下げる くらい 、問題ない。」「下げる（辞書形）」＋「くらい」	*「 さげます 」くらい丁寧形は接続しない
	「田中さんは顔を見せた だけ だった。」「顔を見せた（夕形）」＋「だけ」	*「 見せました 」だけ：丁寧形は接続しない
	「田中さんは顔を見せて も くれない」「顔を見せて（テ形）」＋「も」	「 見せなくて 」も：否定形は接続する
	※様々な形に接続可能である。	

は	主題/対比/上限/下限	取り立て助詞「は」は通常従属節内には表れないが、「対比」の用法の時だけ、従属節に現れる。 数量詞+「は」は上限や下限を表す □「は」は文末まで働き(主題)「が」は用言の語幹まで働く(主格) (三上章)				
主題	日本	は	ユーラシア大陸の東に位置しています。		「は」と「が」は単文内で共起できる	
対比	ビール	は	飲めますが、	ウイスキー	は 飲めません。	
限定	彼女	は	ピアノ	は	うまい。	
強調	このゲームは決して楽しく		は	ない。	「は」と「を」が交代できることもある。	
上限	さすがにラーメン	20杯	は	無理だった。	※数量詞+「は」	
下限	このホールは最低でも		300人	は	入れるだろう。 ※数量詞+「は」	
有主語文	「が」の主語の文	現象文	雨が降っている	無題文	主題を表す様々な様式：主に話し言葉	
	「は」の主語の文	判断文	人生は山あり谷ありだ	有題文	なら	お土産なら、地酒がいいな。 お土産に関して言うなら
無主語文	もともと主語が無い文	述語文	さあ、出発だ。	無題文	って	秋田犬って、綺麗だな。 秋田犬に関して言うなら
	主語が省略された文	準判断文	(君は) 誰だ。	有題文	ったら	ロシア語だったら彼が一番だ。 ロシア語に関して言うなら
主題優勢言語	主題-解説型	日本語/中国語/韓国語		主語優勢言語	主語-述語型	英語/フランス語/ドイツ語
柴谷方良(まさよし) 主語の統語特性	主語プロトタイプ論 典型的な主語/主語らしくない主語/主語のような非主語 ①格助詞「が」で示される ②基本語順で文頭で起こる。 ③敬語化を引き起こす。				敬語化：「お/ご~になる」の主体になるのは主語だけ。 先生が太郎に花子をご紹介になる。	
も	追加/列挙/累加/極端例/意外/和げ		数量詞+「も」の場合、期待や予測より大きな数字だったという意味が含まれる			
同質・添加	私	も	日本人だ。			
極端な例	忙しくて、息つく暇	も	ない。			
量の多さを強調	パーティーに300人	も	集まった。	※数量詞+「も」	子供が5人も生まれた。	セールで7万円も使った。
全てを表す	誰	も	知らない。	※疑問詞と共起し「ない」などの否定表現と呼応する。 誰でも知っている。疑問詞+肯定		
和らげ詠嘆	秋	も	すっかり深まった。	花子も小学生になったかぁ。(詠嘆)	先輩もかわいいところがあるなぁ	
意外さを表す	早く	も	奴が戻ってきた。	普段怒らない私も怒った。		
命題を取り立てる	頭	も	冷やしたし、	薬	も	飲んだが熱が引かない。
まで	極端な事例		「まで」には格助詞の用法と取り立て助詞の用法があるので注意が必要である。 格助詞「まで格」は時間や場所の到達点を表す。「まで」は直前・直後に格助詞が接続できる。			
極端な事例	お前	まで	私を裏切るのか。	※「全て~だ」と暗示している		太郎が駅 まで 走った。格助詞
	子供	に	まで	笑われた。	※格助詞「に」+取り立て助詞「まで」	太郎 まで が駅まで走った。取り立て助詞
	太郎	まで	が	走った。	※取り立て助詞「まで」+格助詞「が」	

さえ	意外性/極限/十分条件/極端例示			
意外性 添加 類推 限定 極限・十分条件	先生 で 子供 に 風だけでなく、雨 水を飲むこと 何か飲み物 お金	さえ さえ さえ さえ さえ	計算を間違える時がある。 わかる問題。 降ってきた。 難しい。 あれば、良いのだけど あれば、何もいない。	格助詞「で」+さえ 格助詞「に」+さえ 「～までも」に言い換え可能。 雨までも降ってきた。 「～すら」「～だって」に言い換え可能。水を飲むことすら難しい。 「だけあれば」に言い換え可能。飲み物だけあれば、良いのだけど。
だけ	限定/程度 限定：「他にはない」という意味を含意する。他を排除する意味合いになる。 「たった」「わずか」のように数量が少ない副詞と共起する。「だけ」は直前・直後に格助詞が接続できる。			
限定 程度	試験に合格したのは彼 好きな たった 半年	だけ だけ だけ	だ。 食べてください。 です。	部長に 部長に このコンサートは東京 だけ だけ だけ しか 報告する。 報告する。 やらない。 だけ+しか 格助詞+だけ だけ+格助詞 だけ+しか
ばかり	およその数/限定/専念 限定：「～することが多い」という頻度に焦点が当たっている。 「ばかり」は直前・直後に格助詞が接続できる。			
およその数 限定 専念	電車が出たのは10分 先生はあの学生 最近ゲーム	ばかり ばかり ばかり	前です。 ひいきする している。	花子は太郎 希望 ばかり ばかり 遊ぶ が 大きい
しか	限定・最小 「しか」の直後には格助詞はつかない。「しか」の直前には格助詞が接続できる。 「しか」は「ない（否定）」と呼応する。 例外：車でしか移動が難しい人がいます。否定呼応無し			
限定・最小	この財布に この店は6時 この島	は から に	5円玉 から に	しか しか しか ない。 開かない。 いない鳥。 「しか」+否定 格助詞+「しか」 格助詞+「しか」 たった ひとり 日曜日 日曜日 しか しか しか いなかった。 休めない。 休めない。
こそ	特立 「こそ」は直前・直後に格助詞が接続できる。			
特立 強調	君 君 今度	こそ こそ こそ	この国の王にふさわしい がんばれ 合格してみせるぞ	君 あの男 こそ こそ に が ふさわしい仕事だ。 犯人に違いない。 接続詞「ば」「から」に接続する。 あなたのことを思えば こそ 言うのです。 思うから こそ 言うのです。

など/なんか/なんて/なんぞ		謙遜/軽視/強調/例示	
謙遜	私	なんか	が 主役は無理です。
軽視	あいつ	なんか	が 主役は無理です。
例示	たまには	フランス料理	なんか も いいね。 「お茶などどうですか。お茶でもどうですか。お茶なんてどうですか」
強調	彼	が	人殺し など するはずがない。
	明日まで	なんて	無理だ。
	暑くて勉強	なんか	できない。
くらい		最低限の例示	
最低限の例示	自分のこと	くらい	自分でやりなさい。
	せめて日曜日	くらい	休みたい。
	日曜日に休む	くらい	が ちょうどいい。
	泣く	くらい	で 許してやる。
	約・だいたい	くらい	で 行きます。
おおよその基準	目に見えない	くらい	細い糸があります。
でも		例示/全て	
例示	お茶	でも	飲みませんか。 例示：お茶などどうですか。お茶なんかどうですか。お茶なんてどうですか
全て・極限	誰	でも	知っている。 疑問詞+肯定 誰も知らない。疑問詞+「も」+「否定」
だに		「だに」+否定=「さえ」+否定 「だに」=「だけでも」+肯定	
限定	地震に	微動	だに しなかった。 「だに」+否定=「さえ」+否定 微動さえしなかった。
	夢	に	だに 思わなかった。 「だに」+否定=「さえ」+否定 夢にさえ思わなかった
	考える		だに 恐ろしい。 「だに」=「だけでも」+肯定 考えるだけでも恐ろしい。

取り立て助詞と格助詞の共起		格助詞の「が」は取り立て助詞の前には来ない。後ろには接続が可能。 取り立て助詞の「しか」の後ろには格助詞は来ない。「この島にしかいない鳥だ」	
①	「が」と「を」は[取り立て助詞]と共起すると、[格助詞]は省略される。		
	「私が日本人です」「私も日本人です」(○) *「私 が も日本人です」(×)「も」と共起せず「が」は省略される 「息子が朝ご飯を作ってくれる。」「朝ご飯 は 息子が作ってくれる。」(○) *「朝ご飯 を は息子が作ってくれる。」(×)「を」は省略される。		
②	「だけ」「ばかり」「なんか」「など」「こそ」「まで」「くらい」の場合 [格助詞] の前に [取り立て助詞] が付く。		
	子供 失敗 この刀 子供 せんべい 私	だけ ばかり こそ まで なんか などが	私の希望です 増えています。 本物です。 私をバカにする。 喜ばれる 選ばれた。
③	「二格」「デ格」「ト格」「カラ格」「ヘ格」の[格助詞]成分が取り立てられる場合 [格助詞] の後ろに [取り立て助詞] が付く。		
	家 休み 太郎 東京 福岡	にも でも としか からも へも	同じパソコンがある。 寝てばかりだった。 遊ばない。 船が出ている。 船が出ている。
④	格助詞の前にも後ろにも接続する取り立て助詞。「など」「だけ」		
	妹 妹	など に など	負けたくない。 負けたくない。
格成分や名詞句に含まれる成分以外でも、主題になれる。		部長 部長	
あの笑顔 は 、何かいいことがあったに違いない。 あの笑顔 から すると、何かいいことがあったに違いない。 副詞句が主題歌されている例。[副詞成分主題化] 課長には明日の会議で私が報告しておきます。 明日の会議で私が課長 に 報告しておきます。[二格成分主題化] スマートフォンは少し高いが 良い 。 少し高いがスマートフォン が 良い。[ガ格成分主題化]		机の上 には 手紙があった。 家 には 父がいる。 翌日 には 帰国した。 京都 では お寺を見た。 家 では 勉強しない。 銀座 では 本を買った。 友達 とは 日本語で話す。 娘 とは 買い物に行った。 教室 からは 子供が出てきた。 12時 からは 昼休みだ 兄 よりは 弟のほうが背が高い。 昨日 よりは だいぶ涼しい。	